

会 議 の 概 要

1 会 議 名 (審議会等名)	令和4年度 宝塚市農業振興会議
2 開 催 日 時	2023年 1月 23日 午前 10時～ 12時
3 開 催 場 所	宝塚市役所3階 特別会議室
4 出 席 委 員	三宅康成、福田俊治、田川貴司、金岡昭弘、日野尾康行、堀川京子、片山喜久雄 (敬称略) 計7名 (欠席1名)
5 公開不可・一部不可の場合の理由	—
6 傍 聴 者 数	なし
7 公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱辞令交付等</p> <p>(1)辞令交付</p> <p>(2)市挨拶 (産業文化部長)</p> <p>(3)会長及び副会長の選出 会長を三宅委員、副会長を片山委員とすることで決定した。</p> <p>(4)情報公開について</p> <p>3. 議事</p> <p>委員8名中7名出席。宝塚農業振興会議規則第5条第2項の規定に基づき、過半数以上の出席により会議は成立していることを報告した。</p> <p><u>(1)宝塚市農業振興会議傍聴要領の策定について</u> 宝塚市農業振興会議傍聴要領案について事務局より説明した。 ⇒異議なし</p> <p><u>(2)第2次宝塚市農業振興計画について</u></p> <p><u>(3)評価指標の進捗状況について</u> (2)(3)は合わせて審議を行った。各指標の作成時および現況値(令和3年度)及び目標値(10年後)を説明した。 ・有害鳥獣被害額は毎年ふり幅があるため、今後被害額が増えたとしても3,500千円を超えないようにすることを目標とする。 ・令和4年10月に最初に指定された生産緑地が30年を経過</p>

し、令和4年度数値は減少する見込み。目標値は減少幅を加味して残していきたい数値を示している。平成4年に生産緑地指定した面積は60haあり、うち52.4haが特定生産緑地に移行しているため、目標値は満たしている状況になっている。特定生産緑地に移行している農地は10年営農する形となるので今後大きく減ることはないと考える。これに関しても必要に応じて目標値の見直しを検討する余地がある。

・都市農地の有効活用事例数は、生産緑地内の貸し借り、市民農園開設の件数で、法律の利活用の推進を図る。

・農業産出額はセンサスに基づく数値。現況で目標値を超えているが、高収益な作物が作付けされたと思われる。目標を水準として引き続き産出額が出せるように推進を図る。

・市民農園利用者数 市民農園は市民の需要が高く、都市農地の法律を有効活用することにより、市民農園利用者数も増加すると考える。

・「農」に関する講習会等参加者数 作成時である令和元年度は生産緑地解除に向けた説明会や食育フェアの参加者があった。令和2.3年度はそれらが開催されていないため、現況値は減少した。ただし、特定生産緑地、生産緑地解除の説明会参加者については、一通り説明が完了しているが、10年後の目標値はそれらを含んだ数値としているため、省く必要があると考えている。次回開催時に目標値の見直しを提案させていただきたい。

⇒現内容で異議なし

4. その他

《委員からの意見交換》

【スローガンのPRについて】

(委員)

スローガンの「愛 農 たからづか」はまだPRはできていない状況か。

(事務局)

計画段階では市内スーパーに掲示する話も出ていたと聞いているが、現段階では新型コロナの影響もあり現地に赴くことが難しいため掲示に至っていない。スーパー等とは強く関係を持っておきたいので今後交渉していく。

(委員)

PRの予算はあるのか。

(事務局)

関係予算はない。

(委員)

私は宝塚阪急のインショップで野菜を出しているが、そのコーナーにのぼりを立てるのはどうか。今は近所の農産物という看板しかあがっていない。「近所」なので、市内で作ったものというのは間接的にはわかるのだが、のぼりがあればよりわかりやすいと思う。夢市場とかあいあいパークにも立てると周知が見込めるのでは。

(事務局)

ぜひ取り組みたいと思ってスローガンを立てたので、農産物を売っているところで皆さんに PR していけたら。地域のスーパーでも地域貢献に重きを置き始めている。

(委員)

以前は宝塚阪急の社員が売り込んでいたが、今は外部業者が入ってインショップを運営しており変わってきている。積極的に市産のものを売ってくれているので、どんどん宝塚市産をアピールしていただけたら。

【雨水、狩猟免許、豚熱について】

(委員)

ゲリラ豪雨で旧国道 176 号線の道路排水が農業用雨水に流れてきている。5~6 年前から少し雨が降っただけでオーバーフローして畑に入ってきてしまう。そうすると 1 週間くらいは入れないような状態になる。雨水対策をなんとかしてほしい。置いた肥料が流れるなどして農業意欲が削がれる。山手の住宅から流れてくる雨水もある。

狩猟免許の試験は夏場がほとんど。冬場でも受けられるチャンスがあると植木屋は取りやすい。夏場は庭木の剪定やほ場の植木に水やりをしているため時間が取れない。試験が 2~3 日あるため、そこまでの時間を確保するのも難しい。市外に農地があるが電柵対策をしてもイノシシやシカの被害がある。

(事務局)

免許制度は市が主催しているわけではない。免許取得者を増やすのが目的だと思うので、こういう事業で出られない人もいるということは県に伝えたい。

(委員)

一昨年くらいから豚コレラが流行っており、それがイノシシに広がっているということを目にした。それが農作物被害額減少の要因になっているかもしれない。西谷の方でも川でイノシシが 2 頭亡くなっていたとか市外でも 5 頭亡くなっていたというのは聞いている。

(委員)

全国的に豚コレラが流行っている。

(事務局)

たしかに豚コレラがイノシシに感染して、今年の捕獲数もイノシシの成獣は減っているため、山の中で死亡している可能性がある。幼獣だけが檻に入っており、親がいないという捕獲ケースが見受けられた。イノシシの農作物被害は減っているが、一方でシカの捕獲量・農作物被害が増えてきている。

(委員)

昨年、豚コレラでイノシシがかなり死亡していると猟師から聞いている。その分被害や捕獲数が少なかったのではないかと思う。シカ3頭が田で死んでいたことがある。ワナで2頭捕獲。私の地区では電柵やワイヤーメッシュ柵を全地域設置しているので、米の被害はなくなった。ところが、入れないとわかったら柵の手前の畔などを掘り返すので、おいかけてこしている。

(委員)

豚コレラ(豚熱)の県下の状況だが、阪神地域では若干鳥獣害被害が減っている。明確な理由はないが、みなさんイノシシの発生が減ったことが原因ではないかと言っている。この豚熱は2年前くらいから広がっており丹波から発生して阪神間にもきている。現在の調査では豚熱の発生が県西、県北に移ってきている。山の中で死亡して里まで下りてきていない可能性がある。耐性をもった個体が出てくるかもしれないので、ワナや柵の点検を継続してほしい。

【特産物について】

(委員)

代表的な農産物として西谷地域では宝塚ねぎを主流でやっている。黒大豆・枝豆は宝塚だけでなく横展開で猪名川町や三田市、神戸北区と一緒にブランド化を強化している。担い手にも田んぼを利用して作っていただけやすく、しっかり処理ができるように施設を作ろうと去年三田市にビーンセンターという大型の施設ができた。枝豆のさやをはずして袋詰めして洗浄して出荷していく施設。宝塚市の農業者もたくさん生産するようになった。それを基軸に集落営農や担い手の所得拡大になればと取り組みを始めたところ。数年かけて産地化していきたいという取り組みもしているので、振興計画に反映できればと思っている。

(委員)

宝塚市にはビーンセンターはないのか。

(委員)

ビーンセンターは三田市なので、そこまで持っていけないといけない。1次処理する機械は宝塚市内のJAにも置いているので活用していただけたら。

【地域計画について】

(委員)

来年から人・農地プランが地域計画になるということで、市長が定める計画のため、宝塚市には策定を進めていただきたい。集積化の進捗状況の中でも集積率の目標指標も出ていたし、そういう項目にもダイレクトに反映される。ひょうご農林機構では農地バンクと農業委員会関係を担っているの、全集落に入るのは現実的ではないができるだけ連携していけたらと思っている。

(事務局)

農業経営基盤強化促進法の改正で令和5年度から2年かけて今までの人・農地プランに替わる地域計画を策定していく。法改正の動きもあったため今年度西谷地域の各集落に対して説明会を、講師を招いて実施した。来年度スタートできるように努めているので、関係機関にはご協力をお願いしたい。

【宝塚市 SA の活用について】

(委員)

宝塚 SA で農業 PR はやっているのか

(事務局)

オープンしたてのころに不定期に西谷米や野菜を出したときは大変好評で、西谷米のファンが増えたという話は聞いている。最近では新型コロナで機会が減っており SIC の利用者も減ってきていたというのもある。また PR できる場所はあるので、農産物含めてやりたいと思っている。

(委員)

夕方はトラックの利用が多い。

(委員)

朝 3~4 時は大型トラックが行列をなしている。

(委員)

SA の食堂のお米は全て西谷産。今はそれくらいで、以前はよく野菜や地域の加工品を売ったりしていた。

(委員)

SA での消費量は増えているか。

(委員)

ピークの 6 割くらい。

【補助制度について】

(委員)

肥料の値上がりは肥料高騰対策で JA に頑張ってもらっているが、燃料費の高騰が一番の心配事。農業はディーゼルエンジンの機械が多く EV 化はできないと思っている。燃料費の高騰が起ってくると、農業を続けていけない。市がどうこうできる問題ではないがそういうのを吸い上げて政府に言ってもらうことはで

きないか。

(委員)

トラクター、コンバインなどの値段が高騰しているのは排気ガスの問題である。昔 10 馬力くらいの商品があったのが今は 20 馬力なければ動かない。結局排気量が大きくなって余計燃料消費が多くなる。その割に価格が昔は 120 万円くらいで買えたのが今は 220 万円くらいするので段々買えなくなっている。購入費の補助金が欲しいと思っているが、跡継ぎがないため買っても仕方ないと思ってしまう。中古で乗り切っている。

(事務局)

農業の継続に向けてご意見いただいて今後の施策に活かす。県も市も同じ立場であるので、この場やこれからも忌憚なく出していただければこれから考えることあるかもしれない。

【総括】

(会長)

進捗状況をきちんとモニタリングし、中身を精査していくことが非常に大事。量よりも質で説明頂けると理解がしやすくなる。そういう意味では右肩上がりしていくものといかないもの、一時的に増えているものとそうでないものの質が違う。必ずしも数字の高低にこだわるかというところでもない場合もあると思うので、そのあたりをきっちり評価ができるような精査をしていただきたい。

宝塚市は都市に近いので一般企業がたくさんある。その企業とどうしたらこの分野と連携できるかという企業の視点、公共の政策の実施主体はおそらく企業も入っているはず。企業そのものというのが、計画では前面に出ていない。今後 CSR などはあるがもうちょっと踏み込んだ連携とかが可能ではないかと思っている。その視点も意識をしていただけるといいかと思う。

5. 閉会

(会長)

本日の議題は全て終了した。これにて閉会とする。